

ワークショップ

■夏休み子どもワークショップ

「巨大モビールに挑戦」

日 時＝平成17年8月2日～8月7日

講 師＝高橋唐子氏

場 所＝当館実技室・展示室

参加者数＝55名

美術館で行うワークショップは、美術館という場であるからこそできる内容でありたいと考えている。そこで当館では、創作だけでなく、展覧会や作品の鑑賞とからめたワークショップが、いろいろと試みられている。

今年の夏休み子どもワークショップは、美術家の高橋唐子さんを講師に迎え、静岡New Art「あなたの居場所」展への展開を視野に入れて開催された。参加者は最初に収藏品展「風－絵の中からそよ吹く」をじっくり鑑賞して、作品の中に、描かれていない何かを感じ取れることを理解してから制作開始。風で動く彫刻＜モビール＞の制作を体験した。後半はそれぞれが持ち寄った「不要なもの」を集めて全員で巨大モビールにも挑戦。このワークショップで制作された色とりどりの作品を、高橋さんが1つにまとめて、9月28日から10月10日まで当館県民ギャラリーを中心に行われた、静岡New Art「あなたの居場所」展の中で、ご自身の作品として展示された。

■絵画ワークショップ

日 時＝平成17年5月3日・4日

9月10日・11日

12月10日、11日

10：15～16：15

講 師＝持塚三樹

場 所＝当館実技室・エントランスホール

参加者数＝68名

昨年度から始まった絵画ワークショップは、絵画の描き方や技法を学ぶことよりも、柔軟な発想による制作体験を通じて、描くことの喜びを発見することに重点を置いている。2年目の今年は3回のワークショップを実施したが、それぞれのテーマと内容を簡単に紹介したい。

●〔ドット若冲〕

5月3、4日に開催された「ドット若冲」では、伊藤若冲《樹下鳥獸図屏風》の一部分を5m×10mに拡大し、共同制作で再現することに挑戦した。初日に展示室で本物を鑑賞した参加者は、この作品独特の「梔目描き」をアレンジした方法で制作していく。10cm

平方の厚紙1つに描かれているのは、それだけ見ても何だか分からない絵の具のしみだが、それが5千枚集まると、見事に若冲が描いた動物たちが浮かび上がってきた。手間のかかる作業であったが、その面白さや驚きは、参加者は勿論、見学していく人にも十分伝わったはずである。



絵画ワークショップ「ドット若冲」

●〔飛び出せ 私のカタチ〕

参加者は収藏品展「眼で楽しむ－仕組まれたもの」の出品作品を鑑賞して、平面なのに目の錯覚で、奥行き感が感じられる面白さを体験した後、実技室で制作を始める。スチレンボードに参加者のシルエットが写し取られ、それを切り抜くと自分と同じ大きさの人型キャンパスの出来上がり。それに自由な彩色を施して、もう一人の私が完成した。最後に作品を持って、美術館の内外、様々なところに出向き、自分も一緒にポーズをとって写真撮影を行ったが、参加者の発想がどんどん柔軟になっていくのが実感できるワークショップであった。

●〔ホワイト・マティエール〕

収藏品展「絵肌（マティエール）の魅力」の開催に合わせて実施したプログラムである。参加者は、渡された型紙の形にダンボールなどを切り取り、それを支持体に、白1色で雪の結晶を描くよう求められる。ジェッソやモデリングペーストを盛り上げて絵肌だけで形を表現することに最初は戸惑う方もいたが、徐々にその面白さが伝わったようで、砂や木の葉なども貼り付けながらどんどん制作が進んだ。最後にエントランスホールで、全員の作品を組み合わせると大きなクリスマスツリーが出現。「マティエールだけで絵を描くなんて考えもしなかった…」という参加者の言葉が印象的であった。